

2018年度 総会シンポジウム

「出産適齢期と性教育 ～女性がほんとうに自分らしい人生を歩むために必要なこと」

2015年8月、文部科学省は高校保健体育・副教材『健康な生活を送るために』を改訂し、全国の高校生に一斉配布しました。この中の妊娠・出産に関連する項では、海外論文のグラフを引用し、女性の妊娠しやすさは22歳がピークであることを示していました。そのグラフが改訂されているとの指摘が上がり、2017年4月に『文科省／高校「妊活」教材の嘘』（論創社）が出版され、現在ではその記載は削除されています。

女性が一定の年齢を越えると妊娠しにくくなるのは事実であり、将来子どもを持ちたい人にとっては、妊孕性に関する知識があった方がいいのは確かです。しかし、妊娠・出産をするかしないかは、女性自身が自分の人生の中で選ぶことであり、早く産むように社会が圧力をかけることはリプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念にそぐわないものです。

女性が性の健康を保持し、ほんとうに自分らしい人生を歩むためには、どのような情報が必要なのでしょうか。また、海外ではそれを踏まえてどのような性教育が行われているのでしょうか。講演とディスカッションを通し、女性がリプロダクティブ・ヘルス／ライツを意識して、いつ妊娠するか、何人産むか、あるいは産まないかを自分で決め、本当に自分らしい人生を歩むためにはどのような性教育が必要なのかを明らかにしていきたいと思えます。

■日 時 2018年5月20日(日) 13:00～16:30(12:30開場)

■会 場 持田製薬ルークホール(東京都新宿区四谷1丁目7番地)

■参加費 会員:2,000円／一般:3,000円／学生:1,000円(学生証の提示が必要です。)

■プログラム

13:00～13:10 開会挨拶

13:10～13:55 講演1:「高校保健・副教材事件から見えてきたこと」

西山 千恵子 『文科省/高校「妊活」教材の嘘』著者／大学非常勤講師

・プロフィール 1958年東京生まれ。1987年お茶の水女子大学大学院修士課程修了。

『ビデオで女性学』(有斐閣、1999、共著)、『視覚表現におけるフェミニズムの諸実践』(『現代批評のプラクティス3:フェミニズム』研究社、1995)ほか。共編に『首長たちの挑戦—女が政治を変える』(『女政のえん』編、瀬織書房、2016)。

13:55～14:40 講演2:「「妊娠しやすさ」の科学の動向と課題」

小西 祥子 人類の多様性の研究／東京大学大学院医学系研究科・助教

・プロフィール 1979年神奈川県生まれ。保健学博士。2009年から1年間ワシントン大学人類学部に留学し、Kathleen A O'Connor先生のもとで妊孕力を科学的に測定する方法およびその限界について学んだ。現在は日本において妊娠待ち時間を測る研究プロジェクトを実施している。

14:40～15:25 講演3:「世界から見た日本の性教育」

橋本 紀子 日本のジェンダー・セクシュアリティ教育を国際的視野から問題にする／女子栄養大学名誉教授

・プロフィール 主な著書に『男女共学制の史的研究』(大月書店、1992)、『フィンランドのジェンダー・セクシュアリティと教育』(明石書店、2006)、『青年の社会的自立と教育—高度成長期日本における地域・学校・家族』(共編著、大月書店、2011)、『教科書にみる世界の性教育』(共編著、かもがわ出版、2018)など多数。

15:25～15:40 休憩

15:40～16:25 ディスカッション:「出産適齢期と性教育

～女性がほんとうに自分らしい人生を歩むために必要なこと」

16:25～16:30 閉会挨拶

司会:武子 愛(当会副会長)

17:30～ 懇親会(会場近くのお店にて約2時間程度、会費は5,000円程度)

申込方法

参加者の氏名・メールアドレス・電話番号・所属・懇親会への参加/不参加を記入の上、下記お問い合わせ先へメールまたはFAXにてお申込ください。(グループで参加の場合は、参加者全員の氏名と代表者の連絡先を記載してください。)

■お問い合わせ■

一般社団法人 性と健康を考える女性専門家の会 事務局

〒104-0045 東京都中央区築地2-12-10 築地MFビル 26号館5階(株式会社 朝日エル内)

TEL:03-5565-3588 / FAX:03-5565-4914 / E-mail:pwcsh@ellesnet.co.jp